

Ⅲ 避難しなくてもよい場合に行うこと

1. 外来や病棟内の確認しておくべきポイント

石巻赤十字病院救命救急センター看護師長・救急看護認定看護師 しぶや たかこ 澁谷多佳子

日常における災害対策点検項目

医療施設は災害発生時に患者の生命を守り、被害を最小限にとどめることが求められる。そのため、職員は速やかに対処行動が取れるよう、日常の中で安全確認行動を習慣化し、高い災害対応能力を持つことが必要である。表 1⁴⁾ に日常から確認しておくべきことの一例を示す。自施設の確認項目を抽出し、日常的に確認する習慣を身に付けるとよい。

被害状況の把握

地震などの災害により、施設が被災した場合には、ただちに院内の情報収集を行い、被害状況に応じて対策を実施しなければならない。情報収集すべき内容を以下に挙げる。

- ①入院・外来患者の被災状況・安否確認と安全確認（二次災害防止）
- ②職員の被災状況・安否確認
- ③施設内の建物や設備（ライフライン）などの損壊状況の確認
- ④現在継続中の医療状況（手術、麻酔、心臓カテーテル検査、血管造影検査、透析）
- ⑤水、電気、医療ガスはどのくらい供給（確保）できるか

情報伝達手段

院内の情報伝達手段としては日常的に使用

表 1 日常における災害対策点検項目

- ・ベッドや車いす、ストレッチャーや機器のストッパーを止めているか
- ・ベッド柵を付けているか
- ・人工呼吸器は無停電コンセントを利用しているか
- ・戸棚の扉は閉めているか
- ・床頭台やサイドテーブルに重いものやこぼれるものを載せていないか
- ・夜間、ブラインドを閉めているか
- ・消火器の位置や使用方法を知っているか
- ・防火扉や防火シャッター前に障害物を置いていないか
- ・備品を固定しているか
- ・危険薬品は安全な場所に保管しているか
- ・非常持ち出し物品は準備しているか
- ・緊急連絡網や報告用紙はいつでも使用できるか

（文献 4 より引用）

されている内線固定電話、PHS などがあるが、停電時は使用できなくなることを想定しておく。文書による伝令は有効であり、災害用報告用紙を準備しておくことが大切である。

災害レベルの設定

災害レベルは院内災害対策本部によって決定される。なお、このレベルの想定はおおよそのものであり、災害の種類や時間的な経過など、さまざまな条件によって変わり得る (p.19)。

各部署の対応

施設にそれほど損傷がなく、通常診療が行える場合の各部署の対応について表 2 に示

表 2 外来および救命救急センターでの災害時の対応例

外 来	救命救急センター
<p>●責任者（看護師長・看護係長・リーダー）</p> <ol style="list-style-type: none"> 被災状況把握，報告書作成・報告 指定新設部門（p.18）への応援要員の決定 職員非常召集→参集状況の確認 患者への説明，協力依頼 被災患者の受け入れ，統括責任者への報告 <p>●メンバー（看護師・看護助手・クラーク）</p> <ol style="list-style-type: none"> 外来患者の安全確認 事務職員などと分担して声を掛けながら巡視する。帰宅可能かを判断し，必要時は会計を省略（本部指示） 被災状況，安全確認 避難経路の確保 被災患者の受け入れ準備（トリアージエリアの設置） 指定新設部門（p.18）への応援 	<p>●責任者（看護師長・看護係長・リーダー）</p> <ol style="list-style-type: none"> 被災状況把握，報告書作成・報告 指定新設部門（p.18）への応援要員の決定 職員非常召集→参集状況の確認 患者への説明，協力依頼 外来患者：帰宅可能かを判断し，必要時は会計を省略（本部指示） 病棟患者：転棟の必要性を説明し，協力を依頼する 一般病棟への入院患者の移動 被災患者の受け入れ，統括責任者への報告 <p>●メンバー（看護師・看護助手・クラーク）</p> <ol style="list-style-type: none"> 救命救急センター入院患者の安全確認 被災状況，安全確認 一般病棟への入院患者移動 被災患者の受け入れ準備および受け入れ 指定新設部門（p.18）への応援

す。また，ライフラインの状況に応じて水，電気，酸素，必要な治療物品，食料などの確保，調整を行う。

停電への備え

停電が発生した場合，自動的に自家発電へ切り替わるが，電力の供給は通常の3～4割ほどに低下する。従って，電気をエネルギーとする医療機器・看護用品の電氣量を把握し，患者の生命にかかわる機器なのか，施設の機能を維持する機器なのかによる使用順位を普段から決めておく。また，トイレのセンサーやウォシュレット，休憩室のポットなど，不

要な電氣器具の電源は切る。さらに薬品保冷庫や製氷機などは複数の病棟で共用するなどの工夫が必要になる。自家発電の動力源が何で，何日間動かせるかについても把握しておく。また，普段から充電できるものは充電しておく⁵⁾。

酸素の準備

通常は中央配管から供給されているが，備蓄量や配管の問題で使用制限が生じる可能性がある。供給量と使用人数の把握を行い，万々に備えて酸素ボンベの確保を検討する。

これだけは覚えておこう！

- ・日常から自施設の確認項目をリストアップし，確認する習慣を付ける。
- ・施設が被災した場合は，すぐに院内の情報収集を行い，被災状況に応じて対策を行う。
- ・自家発電下での電力供給は通常の3～4割程度であるため，いざというときの医療機器の使用順位を決めておく。